

Reference No.6

Utility Model

Public Laid-open Disclosure No.: 3-72491

Public Laid-open Disclosure Date: July 22, 1991

Title of Invention: Pencil Holder

Applicant: Taki Asai

Abstract:

The present invention is directed to a pencil holder. It has a tubular body with a slightly smaller diameter than that of a pencil.

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

平3-72491

⑬ Int. Cl.⁹

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)7月22日

B 43 K 23/00
9/00

A 6863-2C
8906-2C

審査請求 有 請求項の数 3 (全2頁)

⑮ 考案の名称 鉛筆保挾具

⑯ 実 願 平1-134138

⑰ 出 願 平1(1989)11月20日

⑱ 考 案 者 浅 居 た き 愛知県名古屋市守山区森孝4丁目709番地
⑲ 出 願 人 浅 居 た き 愛知県名古屋市守山区森孝4丁目709番地
⑲ 出 願 人 浅 居 時 三 愛知県名古屋市名東区猪高町猪子石下八反田37-1
⑳ 代 理 人 弁理士 六 川 詔 勝

㉑ 実用新案登録請求の範囲

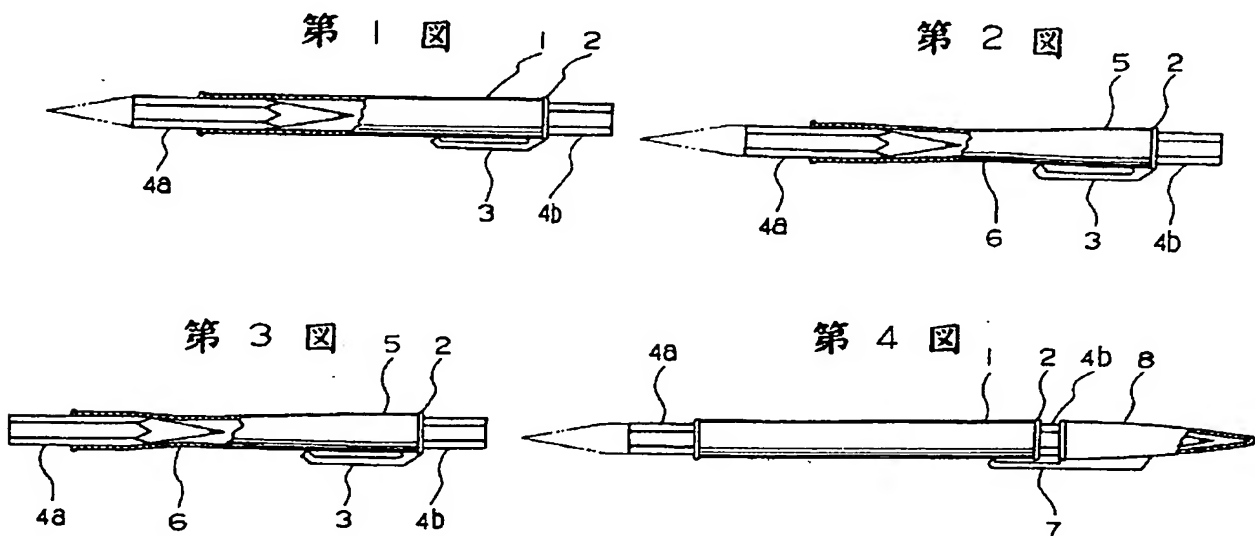
- ① 任意材質よりなる本体を鉛筆より僅少細目の適太さの円筒状としたことを特徴とする鉛筆保挾具。
- ② 本体の両端適位置よりテーバー等にて細くして細部を設けてなる請求項1記載の鉛筆保挾具。
- ③ 本体と同太さの円筒からなり任意形状とし、挾持止を外周に設けたキャップとの組合わとしてなる請求項1及び請求項2記載の鉛筆保挾具。

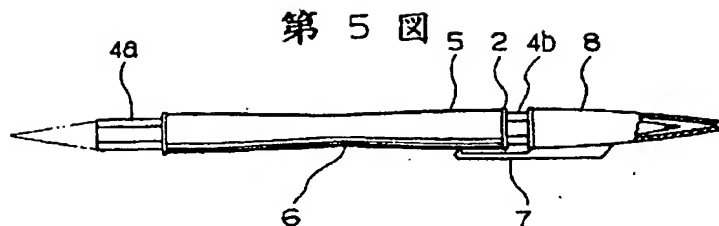
1 実施例の一部を破断した正面図、第2図は本考案第2実施例の一部を破断した正面図、第3図は本考案第2実施例の細部の位置をずらせて設けた正面図、第4図は本考案第3実施例の一部を破断した正面図、第5図は本考案第4実施例の一部を破断した正面図、第6図は従来の保挾具の一部を省略した正面図、第7図は従来のキャップの正面図である。

1 ……本体、2 ……フランジ、3 ……挾持止、
4 a ……鉛筆、4 b ……鉛筆、5 ……本体、6 ……細部、7 ……挾持止、8 ……キャップ。

図面の簡単な説明

図は本考案の実施例を示し、第1図は本考案第

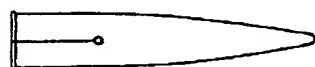




第 6 図



第 7 図



補正 平 2. 7. 13

考案の名称を次のように補正する。

④考案の名称 鉛筆保挾具

実用新案登録請求の範囲、図面の簡単な説明を次のように補正する。

⑦実用新案登録請求の範囲

- ① 任意材質よりなる本体を鉛筆より僅少細目の適太さの円筒状としたことを特徴とする鉛筆保挾具。
- ② 本体の両端適位置よりテーパ等にて細くして細部を設けてなる請求項 1 記載の鉛筆保挾具。
- ③ 本体と同太さの円筒からなり任意形状とし、挾持止を外周に設けたキャップとの組合わとしてなる請求項 1 及び請求項 2 記載の鉛筆保挾

具。

図面の簡単な説明

図は本考案の実施例を示し、第 1 図は本考案第 1 実施例の一部を破断した正面図、第 2 図は本考案第 2 実施例の一部を破断した正面図、第 3 図は本考案第 2 実施例の細部の位置をずらせて設けた正面図、第 4 図は本考案第 3 実施例の一部を破断した正面図、第 5 図は本考案第 4 実施例の一部を破断した正面図、第 6 図は従来の保挾具の一部を省略した正面図、第 7 図は従来のキャップの正面図である。

1……本体、2……フランジ、3……挾持止、4 a……鉛筆、4 b……鉛筆、5……本体、6……細部、7……挾持止、8……キャップ。

公開実用平成 3-72491

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平3-72491

⑬ Int. Cl.⁵

B 43 K 23/00
9/00

識別記号

庁内整理番号

A 6863-2C
8906-2C

⑭ 公開 平成3年(1991)7月22日

審査請求 有 請求項の数 3 (全 頁)

⑮ 考案の名称 鉛筆保挾具

⑯ 実 願 平1-134138

⑰ 出 願 平1(1989)11月20日

⑱ 考 案 者	浅 居	た き	愛知県名古屋市守山区森孝4丁目709番地
⑲ 出 願 人	浅 居	た き	愛知県名古屋市守山区森孝4丁目709番地
⑲ 出 願 人	浅 居	時 三	愛知県名古屋市名東区猪高町猪子石下八反田37-1
⑳ 代 理 人	弁理士 六川 詔勝		

明 細 書

1. 考案の名称

鉛筆保挾具

2. 実用新案登録請求の範囲

- ① 任意材質よりなる本体を鉛筆より僅少細目の適太さの円筒状としたことを特徴とする鉛筆保挾具。
- ② 本体の両端適位置よりテーバー等にて細くして細部を設けてなる請求項1記載の鉛筆保挾具。
- ③ 本体と同太さの円筒からなり任意形状とし、挾持止を外周に設けたキャップとの組合わとしてなる請求項1及び請求項2記載の鉛筆保挾具。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、短くなった鉛筆を捨てることなく使用出来るようにした鉛筆保挾具に関するものである。

(従来 of 技術)

ボールペンやサインペン等各種の筆記具が開

鉛筆
の
改良
案

発されて多種多様のものが出廻っているが、やはり従来からの鉛筆の需要として学生には必需品であり社会でもまだ続いているのが現状である。このような中で物資が飽和状態のため、或る程度短くなった鉛筆は捨てるか、又は二本を背中合せにしてテープを巻いて継ぎ長くして使用するか、更には市販のキャップ類を用いて持ち易くして用いていた。

(考案が解決しようとする問題点)

しかし捨てるもの、中にはまだ使用出来るものが多く、捨て、しまうにはもったいないだけでなく、物資節約の意味からも中央で背中合せで継いでも、安全性には欠けて中央から折れてしまったり、又、市販のキャップでも長さが短く持ちにくく、金属性の長いキャップを用いるとその中に鉛筆が入ってしまったりして鉛筆使用上非常に不都合を感じていた。

(問題点を解決するための手段)

本考案はこのような不都合を解消せんがため、合成樹脂等の任意材質からなり鉛筆より僅少

細目とした適太さの円筒或いは、適太さの円筒両端より中央に向けてテーパー等にて中央を絞り込んで細部を設けてなる本体と、本体と同太さの円筒からなり任意形状に成形してなるキャップとの組合せとし、且つ、挾持止を本体若しくはキャップのいずれかに設けるようにしたものである。

(作 用)

本体両端に短くなった鉛筆を芯を中央側に向けて差し込み、キャップを鉛筆に覆せて準備しておく。この場合差し込んだ鉛筆は、本体より僅少太目のため挿入係止可能であるが、本体にテーパー等にて細部を設けることによって係止の度合は充分となり使用中本体内に入り込むことがない。

使用したい場合は、鉛筆の芯を外方に向けて差し込み直しキャップは不使用の鉛筆に覆せて用い、使用後は前述と同様に芯を中央に向けて差し込んで挾持止にて所定の場所に係止しておく。

(実施例)

① 第1実施例(第1図参照)

図中(1)は合成樹脂等の任意材質からなる本体であって、鉛筆の直径より僅少細目とした円筒状適長さ(普通は6~8cm程)で両端に補強用のフランジ(2)を設け、ポケット等挾持用の挾持止(3)を外周適位置に設けている。

使用に当たっては、本体(1)両端に第1図に示す如く芯が中央側となるよう鉛筆(4a)(4b)を差し込んで準備しておく。そして使用する際鉛筆(4a)を第1図二点鎖線で示す如く芯を外側として鉛筆を差し込みなおして使用し、不要になると前の状態に差し込んで挾持止(3)にて所定の所に係止或いは収納しておく。

② 第2実施例(第2図及び第3図参照)

図中(5)は合成樹脂等の任意材質からなり鉛筆の直径より僅少細目とした円筒状適長さ(普通は6~8cm程)の本体であって、両端適位置より中央に向けてテーパ等にて中央が細くなるよう絞り込んで細部(6)を設け、両端に補強用

特
許
公
報

のフランジ(2)を設置しポケット等挟持用の挟持止(3)を外周適位置に設けている。使用に当たっては、本体(5)両端に第2図に示す如く芯が中央側となるよう鉛筆(4a)(4b)を差し込んで準備しておく。そして使用したくなると、鉛筆(4a)を第2図二点鎖線で示す如く芯を外側として鉛筆を差し込み直して使用し、不要になると前の状態に戻して挟持止(3)にて所定の所に係止或いは収納しておく。

なお鉛筆(4a)(4b)を本体(5)に差し込む場合、中央を細くしてあるため鉛筆(4a)(4b)は途中で止められそれ以上押し込めば押し込む程強く本体(5)に固定する。

そして細部(6)の位置は中央には限定せず第3図に示す如く中央以外に設けるようにしても良い。

このようにすれば本体(5)両端に鉛筆(4a)(4b)を選択して差込むことが出来る。

③第3実施例(第4図参照)

本実施例は第1実施例と殆んど同じで、挟持

解決

止(3)を廃し、合成樹脂等の任意材質からなり適形状に成形した本体(1)と同径の円筒状からなり挟持止(7)を外周適位置に設けたキャップ(8)との組合わとしたものである。使用に当たっても殆んど第1実施例と同様であるが、細部(6)で鉛筆(4a)(4b)の芯が当たっても鉛筆(4b)を差し込み直し何時でも使用出来る状態としておけるため、鉛筆(4b)の差し込み直しが不用で、ポケット等への係止をキャップ(8)の挟持止(7)にて行なう点が異なるのみである。

なお差し込む鉛筆(4a)(4b)が無い場合には本体(5)の一端にキャップ(8)を差し込んでおく。

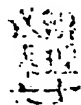
④第4実施例(第5図参照)

本実施例は、第2実施例と殆んど同じで挟持止(3)を廃し、第3実施例の挟持止(7)を設けたキャップ(8)との組合せとしたものである。使用に当たっても殆んど第2実施例と同様であるが細部(6)で鉛筆(4a)(4b)の芯が当たっても鉛筆(4b)を差し込み直しいつでもすぐに使

用出来る状態としておけるため、鉛筆(4b)の差し込み直しが不用であり、又ポケット等への係止がキャップ(8)の挟持止(7)にて行なう点異なるのみである。

(考案の効果)

上述の如く本考案は、二本の長さの異なる短い鉛筆を1組として常時準備することが出来、芯が折れないよう本体或いはキャップにて覆い携帯に便利で中央の絞り込みによって鉛筆の太さが変わっても途中で止まって動いたり入ったり込んでしまったりする心配もなく、且つ、異なるテーパーを設けることによって鉛筆の短かさに応じて二通りの使い分けが可能であり、テーパーによって優雅な高級品化とすることが出来ると共に、特に合成樹脂等の弾性力のある材質を用いた場合には必ずしもテーパーを設けなくても確実に鉛筆が弾力によって挟持固定され、安易安易に使用出来る等多くの特長を有し実用上優れた考案である。



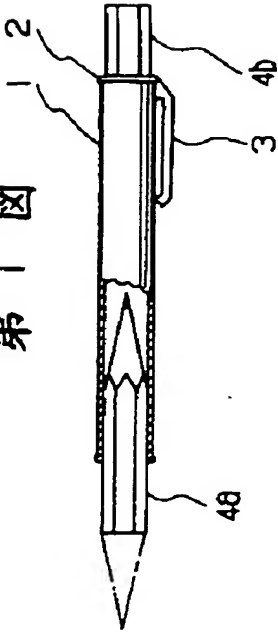
4. 図面の簡単な説明

図は本考案の実施例を示し、第1図は本考案第1実施例の一部を破断した正面図、第2図は本考案第2実施例の一部を破断した正面図、第3図は本考案第2実施例の細部の位置をずらせて設けた正面図、第4図は本考案第3実施例の一部を破断した正面図、第5図は本考案第4実施例の一部を破断した正面図、第6図は従来の保挾具の一部を省略した正面図、第7図は従来のキャップの正面図である。

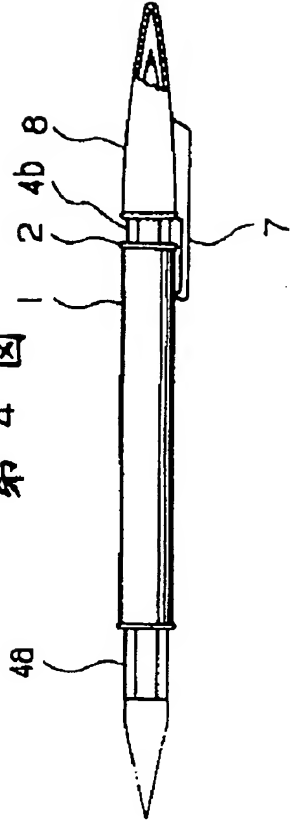
- (1) 本 体
- (2) フランジ
- (3) 挟 持 止
- (4 a) 鉛 筆
- (4 b) 鉛 筆
- (5) 本 体
- (6) 細 部
- (7) 挟 持 止
- (8) キャップ

以上

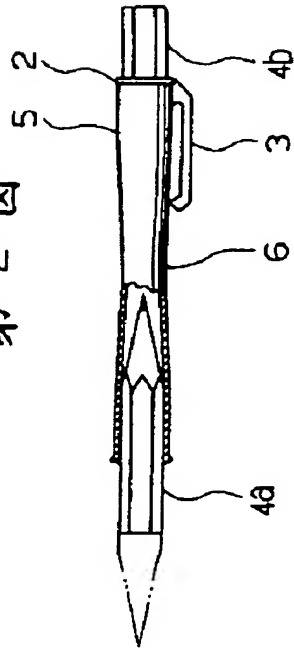
第 1 図



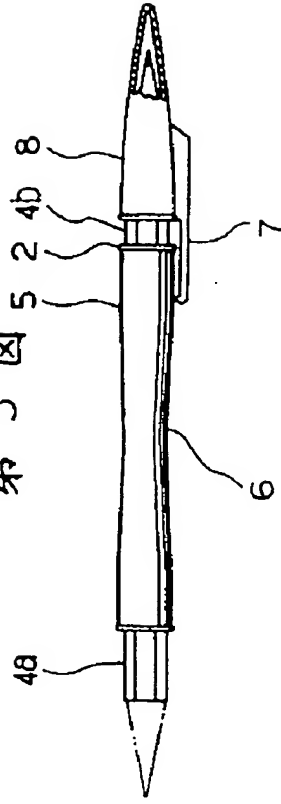
第 4 図



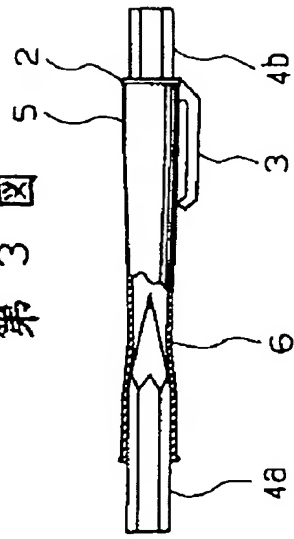
第 2 図



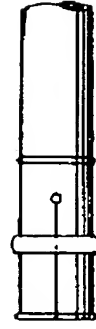
第 5 図



第 3 図



第 6 図



第 7 図



公開 3-72491

代理人 武蔵六三郎

手続補正書 (自発)

平成 2 年 7 月 13 日

特許庁長官 吉 田 文 毅 殿



1. 事件の表示

平成 1 年実用新案登録願第 1 3 4 1 3 8 号

2. 考案の名称

鉛筆保挾具

3. 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

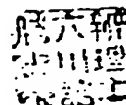
住所 愛知県名古屋市守山区森孝 4 丁目 7 0 9 番地

氏名 浅 居 た き (外 1 名)

4. 代 理 人 画 5 0 0

住 所 岐阜市弥八町 1 6 番地

氏 名 (7694) 六 川 詔 勝



5. 補正命令の日付

自 発

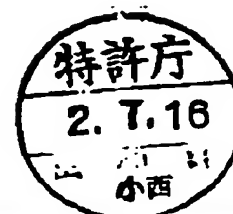
6. 補正の対象

明細書(全文訂正)

7. 補正の内容

別紙の通り

1112





明 細 書(全文訂正)

1. 考案の名称

鉛筆保挾具

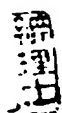
2. 実用新案登録請求の範囲

- ① 任意材質よりなる本体を鉛筆より僅少細目の適太さの円筒状としたことを特徴とする鉛筆保挾具。
- ② 本体の両端適位置よりテーパ等にて細くして細部を設けてなる請求項1記載の鉛筆保挾具。
- ③ 本体と同太さの円筒からなり任意形状とし、挾持止を外周に設けたキャップとの組合わとしてなる請求項1及び請求項2記載の鉛筆保挾具。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、近年世界的に問題視されている森林資源節約の面からも短くなった鉛筆を捨てることなく使用出来るようにした鉛筆保挾具に関するものである。



(従来 of 技術)

ボールペンやサインペン等各種の筆記具が開発されて多種多様なものが出廻っているが、やはり従来からの鉛筆の需要として学生には必需品であり社会でもまだ続いているのが現状である。このような中で物資が飽和状態のため、或る程度短くなった鉛筆は捨てるか、又は二本を背中合せにしてテープを巻いて継ぎ長くして使用するか、更には市販のキャップ類を用いて持ち易くして用いていた。

(考案が解決しようとする問題点)

しかし捨てるもの、中にはまだ使用出来るものが多く、捨て、しまうにはもったいないだけでなく、物資節約の意味からも中央で背中合せで継いでも、安全性には欠けて中央から折れてしまったり、又、市販のキャップでも長さが短く持ちにくく、金属性の長いキャップを用いるとその中に鉛筆が入ってしまったりして鉛筆使用上非常に不都合を感じていた。

(問題点を解決するための手段)

本考案はこのような不都合を解消せんがため、合成樹脂等の任意材質からなり鉛筆より僅少細目とした適太さの円筒或いは、適太さの円筒両端より中央に向けてテーバー等にて中央を絞り込んで細部を設けてなる本体と、本体と同太さの円筒からなり任意形状に成形してなるキャップとの組合せとし、且つ、挟持止を本体若しくはキャップのいずれかに設けるようにしたものである。

(作 用)

本体両端に短くなった鉛筆を芯を中央側に向けて差し込み、キャップを鉛筆に覆せて準備しておく。この場合差し込んだ鉛筆は、本体より僅少太目のため挿入係止可能であるが、本体にテーバー等にて細部を設けることによって係止の度合は充分となり使用中本体内に入り込むことがない。

使用したい場合は、鉛筆の芯を外方に向けて差し込み直しキャップは不使用の鉛筆に覆せて用



い、使用後は前述と同様に芯を中央に向けて差し込んで挟持止にて所定の場所に係止しておく。

(実施例)

① 第1実施例(第1図参照)

図中(1)は合成樹脂等の任意材質からなる本体であって、鉛筆の直径より僅少細目とした円筒状適長さ(普通は6~8cm程)で両端に補強用のフランジ(2)を設け、ポケット等挟持用の挟持止(3)を外周適位置に設けている。

使用に当たっては、本体(1)両端に第1図に示す如く芯が中央側となるよう鉛筆(4a)(4b)を差し込んで準備しておく。そして使用する際鉛筆(4a)を第1図二点鎖線で示す如く芯を外側として鉛筆を差し込みなおして使用し、不要になると前の状態に差し込んで挟持止(3)にて所定の所に係止或いは収納しておく。

② 第2実施例(第2図及び第3図参照)

図中(5)は合成樹脂等の任意材質からなり鉛筆の直径より僅少細目とした円筒状適長さ(普通は6~8cm程)の本体であって、両端適位置よ



り中央に向けてテーパ等にて中央が細くなるよう絞り込んで細部(6)を設け、両端に補強用のフランジ(2)を設置しポケット等挾持用の挾持止(3)を外周適位置に設けている。使用に当たっては、本体(5)両端に第2図に示す如く芯が中央側となるよう鉛筆(4a)(4b)を差し込んで準備しておく。そして使用したくなると、鉛筆(4a)を第2図二点鎖線で示す如く芯を外側として鉛筆を差し込み直して使用し、不要になると前の状態に戻して挾持止(3)にて所定の所に係止或いは収納しておく。

なお鉛筆(4a)(4b)を本体(5)に差し込む場合、中央を細くしてあるため鉛筆(4a)(4b)は途中で止められそれ以上押し込めば押し込む程強く本体(5)に固定する。

そして細部(6)の位置は中央には限定せず第3図に示す如く中央以外に設けるようにしても良い。

このようにすれば本体(5)両端に鉛筆(4a)(4b)を選択して差込むことが出来る。



③ 第3実施例(第4図参照)

本実施例は第1実施例と殆んど同じで、挟持止(3)を廃し、合成樹脂等の任意材質からなり適形状に成形した本体(1)と同径の円筒状からなり挟持止(7)を外周適位置に設けたキャップ(8)との組合わとしたものである。使用に当たっても殆んど第1実施例と同様であるが、細部(6)で鉛筆(4a)(4b)の芯が当たっても鉛筆(4b)を差し込み直し何時でも使用出来る状態としておけるため、鉛筆(4b)の差し込み直しが不用で、ポケット等への係止をキャップ(8)の挟持止(7)にて行なう点が異なるのみである。

なお差し込む鉛筆(4a)(4b)が無い場合には本体(5)の一端にキャップ(8)を差し込んでおく。

④ 第4実施例(第5図参照)

本実施例は、第2実施例と殆んど同じで挟持止(3)を廃し、第3実施例の挟持止(7)を設けたキャップ(8)との組合せとしたものである。使用に当たっても殆んど第2実施例と同様であ



るが細部(6)で鉛筆(4a)(4b)の芯が当たっても鉛筆(4b)を差し込み直しいつでもすぐに使用出来る状態としておけるため、鉛筆(4b)の差し込み直しが不用であり、又ポケット等への係止がキャップ(8)の挟持止(7)にて行なう点異なるのみである。

(考案の効果)

上述の如く本考案は、二本の長さの異なる短い鉛筆を1組として常時準備することが出来、芯が折れないよう本体或いはキャップにて覆い携帯に便利で中央の絞り込みによって鉛筆の太さが変わっても途中で止まって動いたり入ったり込んでしまったりする心配もなく、且つ、異なるテーバーを設けることによって鉛筆の短かさに応じて二通りの使い分けが可能であり、テーバーによって優雅な高級品化とすることが出来ると共に、特に合成樹脂等の弾性力のある材質を用いた場合には必ずしもテーバーを設けなくても確実に鉛筆が弾力によって挟持固定され、安易安易に使用出来る等多くの特長を有し実用上優



れた考案である。

4. 図面の簡単な説明

図は本考案の実施例を示し、第1図は本考案第1実施例の一部を破断した正面図、第2図は本考案第2実施例の一部を破断した正面図、第3図は本考案第2実施例の細部の位置をずらせて設けた正面図、第4図は本考案第3実施例の一部を破断した正面図、第5図は本考案第4実施例の一部を破断した正面図、第6図は従来の保挾具の一部を省略した正面図、第7図は従来のキャップの正面図である。

(1) 本 体

(2) フランジ

(3) 挟 持 止

(4 a) 鉛 筆

(4 b) 鉛 筆

(5) 本 体

(6) 細 部

(7) 挟 持 止

(8) キャップ

以上

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.